

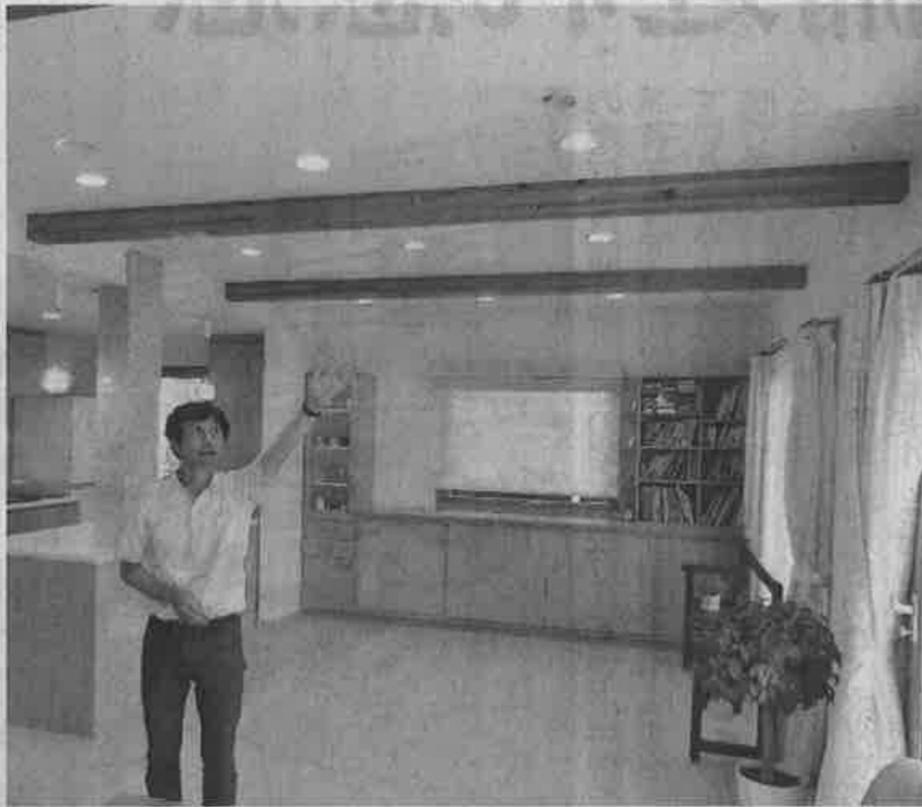
空調1台で全室管理

ちばの元気企業

勝建設 (佐倉市)

全ての部屋の冷暖房をたった1台のエアコンで賄う戸建て住宅。佐倉市の勝建設(小杉敬太郎社長)は、こんな「魔法瓶」のような家の建設を主力事業とする建設会社だ。

冷暖房をエアコン1台で賄う自宅、天井の送風口を紹介する小杉社長。ここを通して屋根裏のエアコンから冷風や温風を送り込む。佐倉市



通常の家に比べて光熱費を約4割削減できる。延べ床面積40坪までエアコン1台で住宅内の高気密化を図る

光熱費4割減の快適住宅



国道296号沿いにある勝建設の事務所。木の質感を生かしたしなやかな外観が目を引く

とともに、ダクトを空気抵抗が少なくなるよう効率的に配管するなどの工夫で、こつとしたメリットを可能にした。新システムを備えた新築住宅の価格は、一般的な規模の延べ床面積30坪、間取り4LDKで2千万円程度。評判は口コミで広がり、県内や東京の客から注文が寄せられている。

寒暖差の激しい日本の気候に目を向けたのが、開発のきっかけだ。特に同社が事務所を置き、小杉社長も住む佐倉市は、冬は氷点下まで気温が下がり、夏は酷暑と、県内でも寒暖差が著しい地域。「どうにかして、同じような服で1年中過ごせる家はできないだろうか」と考えた小杉社長は、2012年に建て替えた自宅を研究の「実験台」にした。

エアコンやダクトなどのメーカーと相談しながら試行錯誤。時には一度建てた上物を壊して作り直すなどの「荒唐治」も経て、約1年がかりで完成させた。快適な室温を保てるだけでなく、エアコンの室外機が1台で済むため、家の外観がスッキリするとうれしい副産物もあった。

ダクトの配管が難しかったため、今は中古物件には対応していないが、将来的に対応できるシステムの開発に挑戦したい考えだ。小杉社長は「急激な温度差で体に悪影響が出るヒートショックを防ぎ、住む人が年を重ねても安心して暮らせる『健康住宅』をこれからも提供していきたい」と意欲を語る。

エアコン販売絶好調

猛暑でメーカーは増産

エアコン販売台数が前年同月比1.2倍で推移しており、草津工場(滋賀県草津市)は増産で対応している。ダイキン工業は足元の好調な販売に伴い、滋賀製作所(草津市)で一段の増産を

準備。三菱電機も静岡製作所(静岡市)でフル稼働を続けている。メーカーは機能面もアピールする。日立ジョンソンコントロールズ空調の高級機は、送風時の臭いの原

因となる熱交換器に付いたほこりや油汚れを自動で洗い流す。三菱電機は人工知能(AI)を一部機種に搭載。人の体感温度を予測した効率的な自動運転が売りだ。

同社は求める「民間企業でた経営感覚や柔軟な情報発信力、地域と一体となりに鉄道経営に取」としている。応募資格は①

次期社

いすみ鉄道(は26日、2代目鳥塚亮氏の退任代目となる民間公募を27日から発表した。8月23日、書類選考と決定する。年収円程度。

京成グループ、新成電鉄、光スポットをール工場見学マに、乗車券にした日帰りの。県と連携